

令和7年度 第2回焼津市総合計画等審議会 会議録

- 1 開催日時 令和7年7月28日(月) 午前10時00分～11時50分
- 2 開催場所 焼津市役所本館 7階会議室7A
- 3 傍聴者 なし
- 4 出席者 焼津市総合計画等審議会委員12名
日詰 一幸 (静岡大学学長)
田中 智之 (早稲田大学理工学術院創造理工学部建築学科教授)
新井 恵子 (静岡福祉大学健康福祉学科学科長・教授)
大石 智之 (焼津鯉節水産加工業協同組合代表)
岡本 康夫 (焼津市自治会連合会会長)
小梁 金男 (焼津漁業協同組合常務理事)
篠宮 悟 (焼津市環境審議会委員)
中村 美雅子 (市民公募)
橋本 奈々実 (市民公募)
原口 佐知子 (市民ファシリテーター団体 Musubi 代表)
古谷 光子 (焼津市教育委員)
村松 文次 (焼津商工会議所専務理事)

(事務局)

- 角谷 佳晃 (行政経営部長)
- 藤本 多加志 (政策企画課長)
- 戸塚 陽介 (政策企画課)
- 岡村 裕介 (政策企画課)
- 飯塚 宏慈 (政策企画課)
- 安藤 輝嘉 (政策企画課)

5 次 第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 市長あいさつ
- 4 議 題
 - (1) 団体ヒアリング及びアンケートの結果について
 - (2) 第6次総合計画第2期基本計画の振り返りについて
 - (3) 第7次焼津市総合計画基本計画体系(案)について
- 5 その他
審議会の開催予定
- 6 閉 会

6 議題の内容

議題（１）及び（２）

- ・（事務局より説明）
団体ヒアリング及びアンケートの結果について
第6次総合計画第2期基本計画の振り返りについて

会 長：それでは皆様から意見をいただきたいと思うが、その前にお二人の審議会委員が取りまとめていただいている資料もあるので、説明していただけるとありがたいと思う。

（委員より参考資料「第7次総合計画へ市民提言」について説明）

委 員：現在焼津PORTERSという漁具倉庫をリノベーションしたところでコミュニティマネージャーをやらせていただいております、そこに集う人々の中で、総合計画を今年度作っているという話をした中で、2回目の審議会の前に提言書について、集まれるメンバーで話して、できるだけ多くの皆さんに見ていただきたいなという流れの中で4月と5月に2回ワークショップを行った結果がこちらの資料となっている。

そもそも市民目線で話すと、まち作りには興味があるが、「総合計画って何？」という人も多数いたので、市議会議員の方が総合計画の理解というところから、4月は簡単に説明してくれた。

総合計画においては、政策・施策・基本事業について、しっかり目標として掲げているというところを理解したことが4月で、そこを理解した上で、提言を作成しようというところが5月のポイントとしてやったことである。

現在の総合計画の政策・施策・基本事業の名称や中身に対して、このままでもいいと思ったものは同一か少し変更した表現で書いてある。

年齢もいろんな世代が参加されて、それぞれ合わせて10名ぐらいの参加であった。

主に盛り上がって私が特にこれから関わっていきたいと思っているところについて、お話をさせていただくと、2ページ目の提言テーマにある「若者のチャレンジがまちに現れ、地元の人も焼津って面白いと実感できるまちへ」というところで、このテーマは何の政策に該当するののかという話の中で、「安全安心で快適に暮らせるまちづくり」に該当すると思うが、「チャレンジにあふれたワクワクする」というワードを追加している。

施策も「まちの資産を活用しチャレンジ意欲をかきたてる魅力あるまちづくりの実現」という提案をさせてもらっている。

基本事業は「チャレンジへの初期支援の充実とサポート体制の構築」としている。主な内容は下に記載があるので、お話をさせていただくとイメージがわくと思うが、空き家が注目されていて、これを移住と絡めておためしチャレンジ制度として、短期でかつ低コストで利用可能なチャレンジを後押しするような補助金などがあると良いんじゃないかとか、まちづくりDIYスタートパックとして、商店街にもチャレンジショップがあるけれど、中身が完成している場所を貸すだけという面があるので、移住者だとか、面白いArt気質の方々も自分でDIYしたいという人もいて、それが逆に付加価値になる

のではないかというところがあるので、D I Yも全ての方がやっていいよというプランというの、市民の声としては出ていた。

そうはいつでも、すぐに移住というの、暮らしてみたこともないのにわからないということもあるので、お試し移住制度や、今、石見銀山の方で盛り上がっているが、保育園留学という制度もあり、住民でなくても預けられるような、親子で少し滞在しながら、お試し焼津暮らしができるといったような面白い意見が出ていた。

私も古民家を購入してD I Yして住んでいるが、私達が住み始めたところで周りの人があそこも空き家だとか、私に話をしに来てくれる。

私達家族に、あそこも空き家だから誰か要るかなというお話があったりするのですが、大切にしてほしい視点にも書いたが、空き家は多いけど、誰にでも貸したいという人がいるわけではないと感じており、まちだったり、その家を大切にしてくれる、想いを持って使ってくれる人に譲りたい空き家の持ち主の方もいるので、そういったものを市役所でやっていただくのも大事だが、連携しながら、諏訪のまちで見てきたことが参考になったが、空き家でお困りの方に対して、まず市民の方が窓口になって市民の声を受けて、そこから市に流していくというの、結構集まるのかなと期待した。諏訪ではこのチラシを出したら空き家バンクの利用が3倍になったと聞いてきた。

次に、私も横浜から8年前にこちらに来て3.11のときも大学生でボランティアを経験しているので、津波とか防災に対してはかなり怯えながら移住をしている。

友達もゼロだったので誰に頼ったらいいのかという不安もあった。旦那さんの転勤とかでこちらに来た方なども不安な中で過ごしていらっしゃる方もいるのではないかと想像している。

やはり、防災のことは焼津市でもかなり力を入れてやってはいると思うが、本当に自分事として関心を持って、災害が来ても大丈夫、安心感に繋がるような取り組みができたらいいなと思っている。

可能かわからないが、私が提案させてもらったのが、市民が楽しく参加する防災力向上企画ということで、オープン避難タワーや、避難タワーもただあるだけで登ったことがないと言う人もいるので、年齢など考慮して、タワーを回るスタンプラリーをやったりとか、タワーの下でマルシェをやってみたりとかという意見も出ていた。

あとは、市民にわかりやすい避難の看板など、今いる場所に対してどこが避難場所だよといったような、現在も何個かあるが、東北地方でも3.11の後に私が10年後訪れたときはもっとわかりやすく、いろんな場所におしゃれな看板があったりしたので、もう少し身近に、今ここにいるから、ここが避難所だとわかるようなものがあると良い。

すこし長くなってしまったが、あとは目を通していただけると、かなり市民の意見が集まっていると思う。

会 長：ありがとうございます。これは何人ぐらいの方が参加されたのか。

委 員：ざっとだが、1回目も2回目も10名ずつぐらい。

会 長：ありがとうございました。次の参考資料についてお願いします。

(委員より参考資料「市民ファシリテーター養成講座★各グループからの意見」について説明)

委 員：焼津市では今年で4年目に入ったが、市民ファシリテーター養成講座ということで市民の方を集めて、職員と一緒に、学びあう・しゃべりあうという場を作らせていただいている。

これまでの3年間、大体5回から6回のコースであったが、今年度は8回コースということで、ものすごく長いコースになった。それでもいろんな方が静岡や菊川、磐田という広い範囲で来てくれており、だから他の市町の視点で焼津を見てくださるといところでやっている。

毎回、自治体を知るといことをテーマにしており、ちょうど今2回目が一昨日終わったが、1回目は条例のことをお話させていただいて、職員の方が一生懸命説明してくれて、それに対してみんなで考えようというようなファシリテーションスキルを高めるためのネタとして使わせていただいているのだが、第2回の一昨日と次回が総合計画になる。

総合計画とはということをお話をしてくださった後に、今回は導入で、総合計画って誰の目線で作ったらいいのだろうとか、どういったことが足りてないかというところで、元々総合計画を深読みして始めてもないので、既に出ている意見があってもいいという前提としてやっているが、いいなと思ったのは、やはり各テーブルに職員の方また市長も毎回来てくださり、一緒に話をしてくださるので、行政と市民の隔たりをなくしながら、みんなで一緒に話をしていくということがアンケートから見ても大きな効果があると思っている。

総合計画を作られているこの職員の方たちも本当に迷いながら、悩みながらやっているのだということをお話しながら、市民と一緒に考えて作ってくださっているもので、今回まだ導入の段階だったのですが、総合計画の策定にあたるパブコメ等々うまく並行しながら、次回来月はその中で足りなかった意見を深掘りするような場を作っていけたらというふうに思っている。10代から70代まで30人ぐらいが毎回来てくださりながら話をしている。

毎回、どなたかがどなたかを呼び込んでくださるので、新規の方もいらっしゃりながら、若い方もどんどん増えながらやっていただいているので、今後また人作りをしながら、少しずつ総合計画などについて、自治体の皆さんと対話をしながら深めていければと思っている。

会 長：ありがとうございました。

ただいま事務局から資料の1-1から1-3までのご説明と、お二人の委員が関わっていただいた市民の皆様との対話の中からまとめられた資料についてお話をいただいた。振り返りが中心となるが、何か皆様の方からご質問ご意見ありましたらお出しいただきたい。

市民の皆様との対話というのは、行政の皆様が入ってくると恣意的なところが出てきてしまう可能性もあるが、平場のところで市民の皆様が集まって自分の方にも伝えていただき、大変自由な空間かなと感じた。そんな取り組みが実際に行われているということは大変望ましいことだと思う。

時間の関係もあって中身にはあまり触れられなかったが、何かお気づきの点とか、あるいはここを聞いてみたいということもあればお出しいただければと思う。

委員：関係団体ヒアリングですが、関係団体というのはどこまでの範囲にヒアリングして行かれたのか、大体どれぐらいのヒアリングの時間をやられたのかお伺いしたい。

会長：資料1-1のところだと思うので、事務局から回答をお願いしたい。

事務局：範囲につきましては、施策関係課で関係団体の選出をお願いしており、範囲等は特に定めていない。関係者のヒアリングの団体数については、約60団体からヒアリングをとっている。時間についても各課に任せている。

委員：水産業の箇所を拝見しますと、漁業協同組合に行かれた後、鯉節水産加工業協同組合にも行っていただいているようだが、この関係団体にヒアリングした結果で、現状が把握しきれているのかという不安がある。

我々加工業としては最後に書いてある組合員減少というところが一文だけ書かれているが、本当の問題は組合員が何で減っているのかというところが一番の問題だと思う。

そこまでヒアリングをしないと本当の問題点がつかめないと思う。

この資料にまとめるにあたってかなり要約をしている部分もあると思うので、そういったところまで聞いていただければいいが、もしそこまでできていないのであれば、組合員に意見を求める機会も必要なのではないかと思った。

事務局：こちらの資料にまとめている記載については文言を要約しているため、聞き取り内容について全部は載せきれていないが、委員からおっしゃられたように、多少聞き取りが薄い分野のところもあるので、必要に応じて追加でヒアリングを行うなど検討をしていきたいと思っている。

委員：先ほどお二人の委員からお話をいただいたが、こういった市民目線でのアンケートツールで取られた意見を出していただいたことについては、今までの総合計画の策定の中で多分なされてないのではないかなと思う。

あくまでも行政主導でいろんな形で作られてきていると思うけども、私自身これを見て、違った視点での、計画を作る意味での資料の提供というものは、貴重な意見なのかなと思う。

内容を見ると、総合計画の中でいろんな皆さんが悩んでいるような内容のものがかなり

あるかと思う。我々行政から見ると、気づいていないような部分も結構ある気がするという意味で、こういった参加者の選び方というものほどのように選ばれたのかと思ひ、広報で公募したであるとか皆さん自身が広報されているとか、そういった苦勞があるの
かないのか、そんなところを教えていただければと思う。

委員：市民からの提言については、とりあえず講座の Instagram で、こういうのをやりますよ
というのをまず作って発信した。

あと、市議会議員が自分のホームページや Instagram でも発信されて、そこを見てきた
方と、あと自分が個別でまち作りに熱い方を思い浮かべて、個別で LINE をした。

年齢的には男女比半々ぐらいで 20 代から 60 代まで幅広い。

委員：私の講座については、市の主催講座でもあるので、チラシを作って広報やいづに載せて
いただいたり、個人の Facebook 等に載せたりすることによって、焼津市外の方も OK と
いうことで、いろんな方からお声がけいただいて来ていただいている。20 代から 75 歳
で後期高齢者になりましたという方もおり、たまにお子さんを連れてくる方もいるので、
10 代の子が入ることもあり、入れ違いにはなるが、幅広く来てくださっている。

あと面白いのが、自分も学びたいからと言って市職員の方が本当にオフで来てくれる。

あとは他の課だけれども、市民の意見をもらいたいからと、ビーチサンダルとショート
パンツで来たりする。職員の方も親身になって来てくれる方も結構いらっしゃるので、
そういった方たちが一緒になって話し合うというのはすごく有意義なのかなというふ
うに感じている。

委員：どうもありがとうございます。この前の参議院選挙の中でいわゆる既成政党以外の政党
が躍進をしたというような、いわゆる日本の社会の考え方というのが非常に変わってき
ているのかなと思う。西洋化というか、ヨーロッパ辺りが極右という表現の中で伸びて
きている状況というのは世界的にあって、アメリカもそうだが、そんな中で焼津も若い
人たちが、日本にとって良い悪いは別にして、若い人たちがそういったところに意見を
述べることができるような、こういった機会とかチャンスで、この方々がある意味作っ
てくれていると思う。例えばネットで意見聴取してもそうたくさん意見は出ない。

特定の関心を持った方々ばかりが意見を述べるような時代というか、今までそういう流
れで来ているとは思いますが、こういった方々の意見が、反映をされていくということが、
これからそういった時代の中の流れの中で、考え方を生かせるような総合計画を作れば
いいということで、我々は、私自身行政にいて、行政の目線や商工会議所、自治会など
非常に違った視点でいろいろ経験させて貰っているが、行政の方々が最終的にこれを作
られると思うので、そういう意味では行政の目線を離れた、また別の目線で見るとい
う、こういう時間を作ってくれると焼津市がまた違った意味で生かされてくるのかと
そのような意見を持った。

委員：この第6次総合計画第2期基本計画の振り返りの少し大きな話になってしまうが、今いろいろ振り返りや、市民の方のご意見をお聞きして、やはりそうだなと思うのですが、今おっしゃられたようなこの市民意見の方の新たな取り組みや関係というのは、総合計画に反映したいと思う一方で、この総合計画というものを改めて見てみると、大きな基本理念が掲げられていて、それが枝分かれして施策に分化していったって、その施策を確認するというか、どのぐらいできているかという成果目標に置き換えられて、○×で評価するということになっている。いわゆるツリー型と言うのですが、幹があって枝分かれしていったって、枝分かれの先を検証して全体としてうまくいくかという構造になっているが、先ほどからお聞きしている提言テーマなどの市民の皆さんのご意見というのは、施策を横断して、いろんなものが絡まって、市民生活なり、これからのビジョンとかイメージができていますが、また戻らなければならないとか、また枝分かれしたものをもう1回束ねて見直したり、あるいは新しい考え方を作ったりということになっているので、このあたりが難しいなと思う。

第2期計画には、施策横断的な視点というものを掲げられており、皆さんもご存知だと思うが、先ほど市長もおっしゃっていた新たな日常への転換や、あるいはDX、人口減少、SDGsが掲げられているが、これが枝わかれしていった後に、もう一度この新たな生活ということが、教育だとか、あるいは子育てだとか、防災だとか絡まって、できているのだろうかという検証がなされていないような気がしている。

事務局にお聞きしたいが、この施策横断的な視点に基づく、総合計画のプランはどの程度を達成されているのか。というような、枝をもう一度束ねて、全体を見る視点に基づく検証がなされ、レビューの基に次のプランに繋がっていかないといけないと思う。

具体的には、委員からいただいた提言テーマに、わくわくするまち作りなどやはり素晴らしいと思うが、これをもう少しよく見ていくと、空き家だとか、あるいは情報提供だとかということが絡まってできている。でも、先ほどの枝わかれしていった先では、やはり情報のことは情報の施策で、空き家まちづくりのことは空き家まちづくりの施策でということで、それらが束ねられても、わくわくする感じにどうやったらできるだろうかということをもう1回考えて、総合政策の書き方とか作り方をもう一度考えなければいけないと思っている。

テーマ3でも、市民防災力で素晴らしくて、市民防災力作るべきだが、やはり行政的と言ってはいけないけども、やはり防災は防災で、情報提供は情報提供でと分かれていってしまう。

本当に印象的だと思うのが、避難津波タワーが出来たけど誰も行っていない。それを例えば子どもたちにツアーやスタンプラリーで知ってもらおう・経験してもらおうということは、子育て・教育・防災を絡めて、何かアクションを作っていかなければいけないと思う。

なので、ツリー型でなくセミラティス型という網目にしたネットワーク型でまち作りをすべきということを専門的に言っているが、ツリー型でなく、いろんなものが絡まって、新たな日常・新たなパラダイムに対するアクションというものをどのように構築し、ど

うのようにレビューしていけるかというような少し大きな話になってしまうが、何か少し転換が必要なのではないかと。

会 長：今ご指摘いただいた点については、おそらく次の体系の話に繋がってくると思う。

要するに、どうも政策・施策あるいは具体的な事業という形になると、どうしても縦割りにになってしまうので、縦割りではない横串をどういうふうに差していけたらいいのかというのが、とても大事なポイントなのかと思う。

そこで、今ご指摘いただいた点などを斟酌しながら、次の第7次総合計画の体系のことについて、まずは資料の説明をいただいた後で皆さんと、それをどうやって横断的な政策あるいは取り組みにまとめ上げることができるのかということを見意見交換できればと思う。

議題（3）

・（事務局より説明）

第7次焼津市総合計画基本計画体系（案）について

会 長：先ほど委員から問題提起いただいたことに関して言えば、基本的には総合計画の体系としてはツリー型となる。従って、大きな都市ビジョンがあって、さらに分割する形で政策が並べられてくるが、焼津市の総合計画の作り込み方としては、市長の任期と合う形で総合計画を展開していく。

その背景には、市長は市長選挙で、いわばマニフェストというような形で、市民に訴え、そして市民の支持を受けて市長に就任されている。それをやりたいというのが市長の意向だと思う。

それをまとめてみると、七つぐらいの大きな塊がある。それをさらにブレイクダウンしてみると、25の施策に分けることができ、またそれをさらにブレイクダウンしてくると、一つ一つの事務事業に展開していくというような体系性を持っている。

それが俗に言う総合計画というものになるわけだが、しかしながら先ほど委員がおっしゃったように、一つの取り組みで見ても、それが実はある施策の中にとどまらないので、相互に関係してくるというような形になってくる。

それで、焼津市ではそれを横断的プロジェクトということで四つぐらいの大きな柱で捉えようとしているが、そこでうまくまとまりができるかどうかということが一つある。なので、体系性を持った総合計画ではあっても、やはりいろいろな取り組みをうまく入れ込むことによって、場合によってはその一つ一つの事務事業が、例えば他の施策とこういう風に関わっているのだということはある程度示せるような、そういった体系性を持ったものになっていけば、非常にわかりやすいという気はするが、それをどういうふうに作り込んでいくのかというのは、これはもう事務局の大きな力の見せ所かなと感じるが、そういうものを作っていくにあたって、こういうことをやってもらったかどうか、あるいはこういう姿勢が大事だといったことを、皆様の視点の中でご意見をいただければありがたいと思うがいかがか。

市長：貴重な意見をお伺いして本当にありがとうございます。

実は、先生方がおっしゃるのはもちろんその通りで今こういう体系になっていますが、これでは今やっていることが図になってないということで、検討を繰り返しているところである。

それはなぜかという、施策の重なった部分はおっしゃるように、立体的になっているはずで、これではまだ不十分だと言っており、方法論をどこに落とし込むかという段階である。

本当は3次元になってくれるとありがたいが、なかなかそれがうまくいかない。

平面で書き表すことがすごく難しく、実際に市役所でやっている業務は、プロジェクトチームを20数個、表も裏もありますけども、実際の事務事業に落とし込んで横断的に実施している。しかしそれがこの図に表現できていない。

残念ながら、委員の皆様がおっしゃるようなことを市では事業としてやっているが、それがなかなかこの平面に落とすことができていなくて、球体で表すことが一番わかりやすいのかなというふうに今検討し続けており、どうしても総合計画の体系となるとこのようになってしまうが、実はツリー型の体系のとおりにはやっていなくて、横断的なプロジェクトチームを主に今やっている。

もう少しこの体系図を進化させるように指示はして一生懸命やっているところだが、まだ図になってないのは残念だなというふうに思っている。

ただ、実際の市の動きは、プロジェクトの柱はあるが、30近いプロジェクトの中で横断的に市は動いている現状がある。

それがまだ表現ができてないということは残念だが、それを皆様のご意見を聞きながら総合計画にも落とし込んでいって、横の繋がりというのはやはり必要なのではないかと感じたので、ぜひそれをご指導していただいて、より立体的になっていく総合計画にしたいと思った。

会長：市長からお話がありましたように、どうもやはり二次元の世界では表現できない部分があるようで、XYZの三次元の立体構造の中で見ると、これとこれがこういうふうに繋がっていくのだという、複雑だが、一体化すると意外とわかりやすいというのはあるのかという気がするが、そういった形になるように今、市の方も検討されているということなので、今日は伝えきれていない部分もたくさんあるということかなと思う。

そういうことも含めながら今後に向けて何か皆様の方でこういったようにしたらどうかとか、いろいろご意見があればお話いただければありがたいがいかか。

委員：そのプロジェクトの図を見てみないとなんとも言えないところもあるが、でも今の資料3を見ている感じだと、DX・GXはそれで一つ、地域創生は別となっているところが少し心配で、これが相互に関係しているはず。やはりDXと地域創生とか、あるいは定住だとか、教育だとか、横串が関係するというのは難しいところで、それが、市長が言

われた 20 数個のプロジェクトというのはどういう関係になっていて、どういう構造になっているのかということが大事なので、それが全部別々の柱になっていてDXはDX、GXはGXでやっているとならば横串になっていないので、その書き方だけでなく、作り方・関係の仕方ということが、より自立化されて、時代に合っていて今後の社会にきちんと対応していけるか、なおかつ焼津らしいということになっているかどうか非常に肝要だと思う。

次回ぐらいになるのかと思うが、その辺りに非常に興味がある。

会長：私もそう思う。やはり、DXとはデジタルトランスフォーメーションということになるが、そのデジタルを使うとどういうふうに変化していくのかということも全部に関わってくる。

GXも同じような形になり、特に環境関係のところでは非常に大事になってくる。こういったDX・GXは全ての地域経済も関わっており、さらには地域共生といったことも関わってくる。例えばInstagramを使うというのも、やはりDX・GXと関わりつつ、移住定住関係人口創出にも関わってくる。横断というふうには言いつつも更に関わりがあるというふうには複雑化しているのが今の現代社会のあり方なのかもしれないが、そういったものをいかにうまく立体的に表現できるのかといったところが事務局にとっても頭の悩ましいところじゃないかなというふうに思うが、そこで何か皆様の方でこうしたらどうかとかですね、何かありましたらぜひご意見いただければ。

委員：そもそもの質問になってしまうが、第6次の政策が6つあって、第7次では政策の分類が変わった背景を知りたい。6つの政策が7つになっているところや、市民協働という文字がなくなっていたりというところが、もしかしたら横断的プロジェクトにも関わってきているから、敢えて無くしているのかというところを、そもそも横断的プロジェクト全体の大きな目標は、市長が掲げたもので合っているのかという点について知りたい。それが見えてくると、4つの横断的プロジェクトも関係してくるというところを、わからなくなったらその目標に立ち戻ることができるのかなと思う。

事務局：政策の数が7つに増えている理由については施策の体系の説明のところでも触れさせていただいたが、市長が第4期目の任期を迎えるにあたって掲げた市政運営の基本的な方針というものが、その方針に掲げられた7つの政策の分野になっているということでご理解いただきたい。

横断的プロジェクトのコンセプトや目標については補足説明が必要だと思うので、一つずつ簡単に補足をさせていただきたい。

まず、DX・GX推進プロジェクトについては、言葉が行政的な言葉になってしまっていてご理解できない部分があるかもしれないが、一応簡単に説明させていただくと、急激に変化する社会環境の中で、次世代に誇れる持続可能で豊かな地域社会を築くために、デジタルトランスフォーメーションとグリーントランスフォーメーションの力を横断的

に活用して、市政運営の革新と市民生活の質を向上させることを目指している。
続いて、地域経済循環プロジェクトについては、地域内における人材・資源・情報の流れを再構築・強化することにより、地域経済の自立性と持続可能性を高めるとともに、市民・事業者・行政の共創を通じて、「選ばれるまち」「暮らし続けられるまち」目指していく。

地域共生創出プロジェクトについては、人口減少や少子高齢化、地域コミュニティの希薄化といった社会課題が進行する中で、地域社会の持続可能性が問われている。こうした時代の転換期において、多様な主体が相互に理解・協力しながら、誰もがその人らしく生き、安心して暮らし続けられる地域社会の実現を目指している。

最後に、移住定住関係人口については、人口減少や地域の持続性といった社会的課題に対して、本市が多様な人々との新たな関係を築くことで、地域の活力と未来への可能性を広げていくための横断的な取組みとなる。

単なる「人の移動」ではなく、地域に根ざした暮らしや働き方、生き方を尊重しながら、「関わりしろ」のあるまちを創出することを目指している。

以上簡単なプロジェクトの説明となるが、先ほどからご指摘いただいているように、どれもが複雑に絡まってくると思うので、この辺りについてはまた今後修正したものを提案させていただきたいと考えている。

会 長：一応横断プロジェクトを立ち上げた背景については、そういったことだと思うが、それをさらに紐解いていく作業をこれからしていただくということになるかと思う。
この審議会でその部分の対応ができるように、埋められるようにしていくということが大事かと思うので、そういう点ではぜひ市民の皆様が目線で、行政から出されてきた資料について、ご意見いただけるとありがたい。

委 員：第7次の総合計画の体系図案ですが、1から7まで政策がありますが、7の行政経営は、1から6の政策を実施するに当たってベーシックになるような部分で、全てに関わるような部分になってくるのではないかと思う。
そうすると、くらし・環境の3-1にある協働と共生はここにあるよりも行政経営に入れて、全体に関わるような立ち位置である気がする。これはおそらく部というか、それぞれの組織に合わせて作ってあるのでこういう体系になっているのかと思う。
そこを一生懸命横断的プロジェクトとか、横の部とは手を組んでやっていくというのはわかるが、行政経営は全てに係るベーシックな部分じゃないのかなと考える。
意見として言わせていただいた。

事務局：行政経営についてご指摘があったが、庁内の検討会議では、こういったご意見が出てこなかったもので、今のご意見を踏まえて検討させていただきたい。

委 員：単純な質問で教えてほしい。横断的なプロジェクトということで設定をされているが、

成果指標というのはプロジェクトとしての成果指標を設けるのか。それとも、プロジェクトで検討と実施をして、その結果はそれぞれの施策の中で成果指標として求めるのか、その辺りを教えて欲しい。

事務局：今現在の考え方としては、プロジェクトは半年に1回評価をして見直しをすることはしている。ただ、成果指標の設定の繋がりについては、施策横断的な取り組みがプロジェクトになるので、その成果指標や評価については、施策ごとに成果指標を設定して、評価して見直しを実施していくということを考えている。

委員：ということは、プロジェクトで検討された内容については、それぞれの施策を推進するためのプロジェクトというような考え方になるということでしょうか。

事務局：そのような考え方で良い。

委員：最初にご説明いただいたときにすごく感じたのが、人材育成というところで、ここ10年少し本市に関わりを持たせていただいて、職員の方が事務作業に追われてしまって、日々疲れきっているなど感じている。やはり提出書類が多く、DXがこれだけ当たり前の時代でも資料を作るのに精いっぱいになっており、それをやることで疲れてしまっていて、何をやっているのかというところはなかなか見えてこない。

職員の研修をさせていただくと他の部署の方と会う機会もない喋る機会もないという状況。昨年度は係長クラス、今年度は主査の職員の方の職員研修をこれから始めるが、見たことも会ったこともない職員同士が一日中パソコンと仕事をしていることが多くなってしまっていて、研修が終わる頃にすごく皆さん仲良くなる。

他部署が何をやっているかを初めて知りましたというようなことが多くなって、これがまさに横断に繋がるのではないかと思う。

事務事業をやるにしても、他の部署に声掛けするにしても、何も知らないというような状況が起きているので、人材育成にどのくらいお金が掛かっていますかということをお聞きしたいが、やはりなるべく少しでも人材が楽しく仕事することによって職員の資質向上につながり、最終的には市民サービス向上に繋がるのではないかとこのことをすごく感じたので、何か人材育成みたいなものが一つあってもいいのかというのを感じた。

それを入れたことによって予算が取りやすくなったり、時間が取りやすくなるというのも一つあるのかなと感じている。

会長：行政経営のお話があったが、DXの取り組みを進めるとかなり省力化できる、あるいは生産性を上げることができると思っている。

大学の中では生成AIが相当使われており、それでもやはり事務作業の方にそれがなかなか波及していかないが、教員の方はというと、論文なんかは生成AIが書いてくれる

ようなところまで来ている。海外からたくさんの論文が入ってくるわけだが、そういうものも上手く生成A Iを使うと簡単に要約を日本語で書いてくれる。だから圧倒的に生産性が上がってくるわけである。だから今、研究者の中では生成A Iを使いこなせないとなかなか学者としてやっていけないというところまで来ている。

おそらく ChatGPT を中心とした生成A I をいかに行政が導入できるのか、あるいはその使い手になれるのかというところで、行政経営の大きな変化が起きるだろうと思っている。

そこで空いた時間をどこに使うのかといったところが、実は今委員がおっしゃった人材育成等のところだと思う。

要するに、対面的なところであるとか、あるいはかつてなかなか行政としては手が出しづらかったところに職員の方々のエネルギーを割くことができるだろうと思う。

そういう意味で言うと、明らかにこのDXの中にA Iをいかに取り込むことができるのかといったところが、非常に大事になってきていて、市民の中にも最近そういうものの使い手が出てきているので、そういった方々といかにうまく連携していくのかということがとても大事ななと思っている。

プロンプトというのは、生成A Iにいろんな指示を出すものだが、そのエンジニアがどんどんこれから出てくるということで、最近興味があるのだが、そういったところにあるような情報を聞いてみると、プロンプトエンジニアリングを養成する講座みたいなのが出てきたということなので、1年半ぐらい前にこの生成A Iということを知ったときには、これは本当にちゃんとチェックしなければいけない危険なものだと思っていたが、とんでもない話で、いかにこの1年半の間にChatGPTを中心とした生成A Iが発展してきているのかということは、本当に信じられないと思っている。

とはいってもやはりA Iは怖さみたいなものも、もう一方で考えていかなければいけないというところもあって非常に難しい今時代になってきているなと思うが、ただ行政経営という側面で考えてみると、生産性を上げるためには生成A Iをぜひ検討していただくということが大事ななと思った。

そろそろ時間になるが、何かこれだけは言っておきたいということがあれば、ぜひお話しただけるとありがたい。

委員：第6次総合計画の中で施策横断的な視点としてあった新たな日常への転換、DX推進、人口減少、SDGsといった4つの視点が、第7次総合計画では横断的プロジェクトという表現の仕方で4つにまとめられていると思うが、一般市民的な目線で見ると、第6次で書いてある横断的な視点から、この横断的プロジェクトの4つにまとめられたものになり、非常に範囲が狭められているような気がしてしまう。テーマを特定してしまっているような気がして、果たしてこれでいいのかと不安になる部分がある。

これが相互に補完し合って、全てを網羅している横断的プロジェクトであればいいが、この横断的プロジェクトのまとめ方がどういうまとめ方でこの4つにまとめられたのか、教えていただきたい。

あと、これまた一般市民的な目線からすると、将来都市像と基本理念は第6次と同じと
いうことで、この将来都市像として基本理念を果たすためにこの計画体系があるのだが、
体系として並べると全ての政策が対等に並んでいて何の強弱もなく見える。

そうすると、これを見ただけで、どうやってこの将来都市像を実現するのだとか、基本
理念はどうやって実現されるのだろうかというのが、なかなかイメージがつかないところ
があり、何か表現の仕方で、重点施策とかそういったものを入れるのがいいのかわから
ないが、こういうところに力を入れて、将来都市像を実現しますといったうまい表現が
ないのかという漠然とした意見だがいかがか。

事務局：施策横断的な視点の件について、第6次総合計画で掲げている4つの視点については逆
に範囲が広がりすぎているといった意見があり、それを踏まえて第7次総合計画では範
囲を絞らせてもらった面があるが、もう1回検討をさせていただきたいと思う。あとで
すね、施策について濃淡をとるところにつきましても、例えば今ご意見いただいたよ
うに重点政策みたいなことで位置づけできるかどうか検討させていただきたい。

委員：今のお話と関連するが、やはりこの横断的プロジェクトは、コンセプトであるとか目標
を設定すべきだと思う。ただプロジェクトを羅列するのではなくて、何を指すのか、
どういうまち作りというか焼津にするのかというような、ビジョンが見えることが必要
で、それに基づいて、強弱だとか、あるいは体系の整理というのか、今の現行の施策横
断的な視点をもう少し絞っていくということの関係性が見えてくると思うので、ぜ
ひ、目標とコンセプトの設定について考えていただければと思う。

委員：今全体のお話を聞いて、今後のこの全体の総合計画の体系を含めて検討していることと、
少し遡ってしまうかもしれないが、横断的プロジェクトとの兼ね合いについてだが、総
合計画が大元にあり、そこから派生して個別のいろんな何々委員会(PT)というのがある
のだが、その委員会というのは、この現行の横断的プロジェクトの中で作っていく形に
なっていくのか。それとも、この総合計画の体系を作ったところで、改めて横断的プロ
ジェクトを作り直すのか。例えばDX・GXは会長がおっしゃっていた通り非常にいろ
んなことにも関わってくる。私も今、市のスマートシティの方にも関連させてもらっ
ていて、まさに今それをやっている最中のところで、これをまた組み直しをするのか、見
直しをするのかとかというのがわかりにくい点もあるので、その辺りを整理して聞かせ
ていただければと思う。

事務局：具体例としてスマートシティの委員会を挙げていただきましたが、例えばスマートシ
ティの委員会であれば基本的にはあのまま継続していただく形になるかと思う。ただ
一方で、今回の総合計画の検討の中で大きく方向性が変わるといった場合があれば、委
員会は改めて変更することもあり得ると考えている。

委員：そうすると**横断的**プロジェクトという4つのカテゴリーを代表的な形で出されているということで、もっと細かく網の目状のような企画になると思うが、個別のプロジェクト(PT)ということでは、基本的には見直しをしていくという形になるのか。

事務局：今の案ですと、現在個別のプロジェクト(PT)が27個あり、1個1個羅列すると収拾がつかなくなるので、この4つの大きな柱に整理をさせていただいたという形。その上で、今回内容ごとに整理させていただいているが、今あるプロジェクト(PT)は、基本的には引き続きやっていく形になると思うが、ただ先ほどの委員会と同様に、今回の総合計画の検討の中で新しい政策課題が出てきたであるとか、もしくはこのプロジェクト(PT)はもういらぬのではないかとか、そういった話が出てくれば、それも踏まえて**横断的**プロジェクトの体系を見直ししていくといった形になるかと考えている。

委員：今あるものを修正しながら、ここにも関係するよね、ここにも関係するよね、逆にここに集中しようよねというようなことをやっていくというイメージでよろしいか。

事務局：現在のプロジェクト(PT)については、基本的に庁内の施策横断的な課題に対して対応していくといった形でやらせていただいております、もちろん重点的かつ施策横断的な必要なものもいろんな濃淡があり、その中で特に重要なものを**横断的**プロジェクトとして位置付けている。その上で今日の皆さまからいただいた指摘を踏まえて、**横断的**プロジェクトについても濃淡つけられるかどうかかわからないが、それも含めて検討させていただければと思う。

委員：次回の審議会と同じように第7次の案を見て、意見を言えるようにここに臨むということで合っているのか。新しい施策が4つ増えたということは、次の4年間でしっかり力を入れていくから増えたと思うが、その追加した背景を聞いてから、次回の審議会に臨みたい。

会長：次回の仕立てというか、作りたてというか、それをどういうふうに事務局としてお考えなのかということだと思うが、今日は特に横断的プロジェクトのことについて、体系で非常に重要な視点だというふうに思っているが、次回に向けてどんな取り組みが出されて、それを委員の皆様どんな形でフィードバックしていただけるのか、そのあたり見通しがあるようなら、お伝えいただきたい。

事務局：元々は本日で体系についてご了解をいただいて、今回は個別具体的な施策が入ったものを取りまとめてご審議していただく予定ではあったが、皆様からいろいろとご指摘いただいたので、まずはこの体系につきまして改めて練り直しさせていただく。その上で、ただ同時にスケジュールの兼ね合いもあるので、大枠としては政策・施策についてはご了解いただいて、**横断的**プロジェクトのイメージは少し改変するかもしれないが、政策

の内容も含めてまた次回、ご説明させていただきたいというふうに考えている。

その上で、今日しっかり説明できなくて申し訳なかったが、政策・施策の考え方と何でこれが作られているのかであるとか、考え方についても詳しくご説明させていただきたい。

委員：可能なら9月30日より前に、資料を送っていただいたり、説明に来ていただいたりしていただければありがたい。やはりこの短時間2時間ぐらいの中で、自分の意見をお伝えするというのは、難しく、資料も読み込めないで、事前にいただけるとより良い審議会になると思った。

事務局：なるべく次回の早いうちに、資料を準備してご説明させていただく。

会長：時間も来たので、このあたりで審議を終了したいと思う。

全員にご発言いただけなくて申し訳ないが、とりあえず今日出された中では、資料3の横断的なプロジェクトのところの再検討というのが一つポイントとしてあったので、そのあたりはぜひ事務局の方で暑い夏ではあるが、汗をかいてお願いをしたいと思う。

体系的なところは、おそらくこういう形になると思うが、もう少し手を入れていただいた形で、先ほどの横断的なプロジェクトのところについても、やはり基本的な理念であるとか、あるいはどういうその考え方でこれを進めていくのかといった細かいところが大事になってくるかと思うので、そのあたりもぜひ詰めていただきたい。

加えて、あらかじめ資料を委員の皆様がご理解いただけるような手立てを考えていただきたいと思う。

時間的なところと内容的な両方あると思うので、どういう形がいいのかということはまた事務局におまかせするが、ご配慮いただきたいと思う。

また、今日はお2人の委員がまとめていただいた資料があるので、そういったものをもう一度事務局の方でかみ砕いて理解いただいた上で、それももう一度この中に落とし込んでいただくようなことを検討いただければと思う。

以上とさせていただきます。

本日はいろいろとご意見をいただきありがとうございました。

(10) その他

- ・(事務局より説明)

次回以降の日程について

(11) 閉会